記　者　提　供　資　料
2026 年(令和 8 年) 11 月 11 日
文化スポーツ室歴史文化財担当 （担当：稲原） TEL：078-918-5629（内線：7221）

上ノ丸で５世紀の古墳の周溝と埴輪が見つかる

このたび､個人住宅建設工事に伴って令和８年９月７日から 16 日に行われた発掘調査で、古墳時代中期（5 世紀後半）の古墳の周溝が見つかり、そこから完形に近い埴輪が 3 基出土しました。

調査地は明石市上ノ丸１丁目に所在しており、明石市立文化博物館から約 250ｍ北東の標高約 15ｍの段丘上に立地しています。このたびの調査面積は 24 ㎡です。

調査区南西隅で、北西から南東にかけてほぼ直線的に走る溝の東肩が検出されました。この溝は現存する幅約 2m、深さは最大で 50cm でした。溝は５ｍの長さが検出されていますが、溝の下端付近から少なくとも 3 基の円筒埴輪がまとまって出土しました。このことから、当該溝は北東側に墳丘をもつ古墳の周溝であったとみられます。3 基の埴輪はいずれも直径は 20cm で、高さは現存で 30cm のもので、1 基のみ須恵質に焼かれ、他の 2 基は土師質でした。須恵質のものは突帯が 3 条で、外面の調整にはタテハケが用いられることなどから 5 世紀後半の時期に位置づけられます。古墳の墳丘は削平されているとみられますが、主体部は北東部にあったと考えられます。全体の規模はわかりませんが、埴輪をもつことから当時の有力な人物がここに葬られていたことがうかがえました。

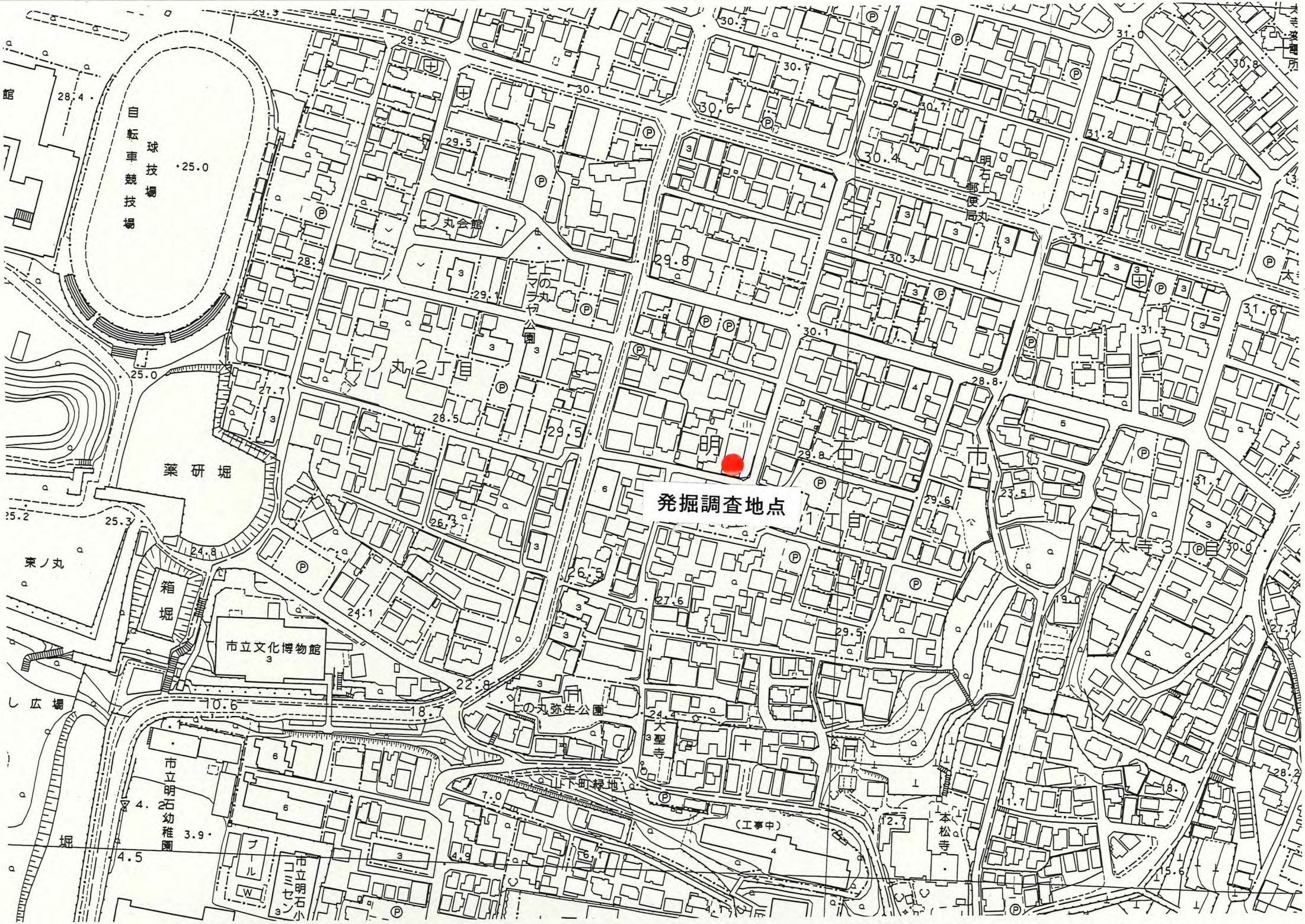
また、この溝より約 1m東では径 50cm、深さ 40cm の柱跡が南北方向に３基並んで検出されており、東側に柱跡が延びていくと推定されました。このことから本来あったとみられる古墳の墳丘は削平されたものとみなされます。柱間は２ｍあるもので、７世紀代に位置づけられると考えられます。また、柱穴が大型であることから通常の集落の建物ではなく、官衙的な性格をもった建物が立っていたことが予測されます。

古墳に伴う埴輪は、墳丘裾部に据えられた状態で検出される場合が多いものですが、このたびの調査では、底部ごと周溝内から出土したことから、７世紀の造成の際に抜き取られ、周溝内に廃棄されたものと考えることができます。

当地周辺では、調査地約 300ｍ南西の明石城内の東郭付近で埴輪片が採集されているのと、調査地約 100ｍ北東の太寺 2 丁目でも埴輪片が採集されています。いずれも今回見つかった埴輪とほぼ同時期の５世紀後半のものであり、台地の縁辺部に古墳が点在していたことが明らかとなってきました。

今回の調査は、明石地域でまだ実態がよくわかっていない古墳時代中期に相当する 5 世紀代の様相の一端を知ることができたとともに、古墳時代から古代においてこの台地上の地理的重要性をうかがわせることとなり、貴重な成果を収めました。

現地は調査後埋め戻されているため、すでに見ることはできませんが、今回の調査で出土した円筒埴輪は、文化博物館で開催する「発掘された明石の歴史展―『播磨国風土記』と明石―」に合わせて 11 月 14 日（土）～2027 年 1 月 11 日（月）まで、文化博物館 1 階ロビーで特別に展示します。



発掘調査地点
明石市
上ノ丸2丁目
上ノ丸会館
上の丸ヒマラヤ公園
明石上ノ丸郵便局
太寺3丁目
薬研堀
箱堀
東ノ丸
市立文化博物館
上の丸弥生公園
大聖寺
山下町緑地
（工事中）
本松寺
市立明石幼稚園
市立明石小コミセン
プール
自転車競技場
球技場



調査区全景



作 業 風 景



埴輪出土状況



円 筒 埴 輪



円 筒 埴 輪